

第4回新市の名称に関する小委員会会議録

日時：平成16年3月6日（土）

午後2時29分から

会場：三和村スポーツセンター 研修室

区分	市町村名	役職名	氏名	
規約第8条 第1項第2号の委員  (構成市町村の議会の議長及び構成市町村の議会が当該構成市町村の議会の議員のうちから選出する者)	上越市	上越市議会総務常任委員長	早津輝雄	
	安塚町	安塚町議会副議長	松野 恵	
	浦川原村	浦川原村議会環境建設常任委員長	石田 敏一	
	大島村	大島村議会議員	丸田 伸一	
	牧 村	牧村議会議員	宮本 富男	
	柿崎町	柿崎町議会議長	新澤 明一	
	大潟町	大潟町議会合併問題特別委員会委員長	内山 米六	
	頸城村	頸城村議会議員	布施 兵衛	
	吉川町	吉川町議会副議長	吉村 一博	
	中郷村	中郷村議会副議長	豊岡 眞一	
	板倉町	板倉町議会副議長	島田 武	
	清里村	清里村議会議員	保坂 隆男	
	三和村	三和村議会副議長	松縄 教一	
	名立町	名立町議会議長	塚田 正	
規約第8条 第1項第3号の委員  (学識経験者その他の者で構成市町村の長が協議により必要と認めるもの)	上越市	上越市町内会長連絡協議会会長	田中 昭平	
	安塚町	安塚町商工会長	横尾 新一	
	浦川原村	浦川原村まちづくり研究委員会委員	内山 美恵子	
	大島村	大島村合併協議会委員	山岸 幸子	
	牧 村	牧村住民会議準備会委員	江口 理恵子	
	柿崎町	柿崎町農業委員	神岡 八江子	欠席
	大潟町	大潟町教育委員	大浜 啓子	
	頸城村	頸城村自治会長協議会会長	大場 崇夫	
	吉川町	吉川町男女共同参画計画策定委員会副委員長	岩井 栄子	
	中郷村	中郷村合併検討委員会委員	杉本 優子	
	板倉町	板倉町合併推進委員会委員	増村 恵子	
	清里村	清里村合併推進委員会副会長	細谷 愛子	
	三和村	三和村合併推進協議会会長	近藤 一郎	
	名立町	名立町市町村合併審議会委員	久保 埜朝子	
共 通	えちご上越農業協同組合代表理事副組合長	笹川 一成		

午後3時34分休憩時に退席

議 題

1 審議

○新市の名称について

2 その他

午後2時29分 開会

○笹川一成委員長 皆さん、どうもご苦労さまでございます。これから第4回の新市の名称に関する小委員会を開かせていただきます。

先般第3回目につきましては、私所用のために委員会の方欠席させていただきました。田中副委員長の方から進行をお願いしたわけですが、議事録拝見いたしますと、皆さんからそれぞれ活発なご論議をいただいたわけですが、この会もきょうで4回目ですが、まとめとってはなんです、この次くらいにはまとめていただいて、それを協議会の方に報告するというような段取りになろうかと思えます。きょうもまた皆さんからいろんなご議論をいただきたいと思うわけですが、失礼させてもらって、座らせていただきます。

それでは、これから第4回新市の名称に関する小委員会を開催いたします。

次第に従いまして進めさせていただきますが、本日は委員29名のうち28名のご出席でありますので、小委員会規程第6条第2項の規定によりまして会議は成立しております。

今回の会議録署名委員は、上越地域合併協議会小委員会規程第10条の規定において準用する上越地域合併協議会の会議の運営に関する規程第3条第2項の規定によりまして、大潟町の内山委員さん、頸城村の布施委員さんをそれぞれ指名させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、審議に入る前に事務局の方から連絡事項がありましたらお願いいたします。

○小菅宏造事務局総括 それでは、日程のご案内でございますが、本日は協議会の方が非常に早く終了いたしました。それで、本日のこの小委員会でございますが、おおむね4時ごろをめぐりご審議を進めていただきたいと思います。

また、会議録を作成する都合がございますので、前回と同じでございますが、発言するときは必ずマイクの使用とお名前をお話しいただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

1 審議 ○新市の名称について

○笹川一成委員長 それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思えますが、まず審議についてでございます。

資料が事前にお手元へ送付されております。事務局から説明を求めます。

事務局、お願いします。

○小菅宏造事務局総括 前回の委員会の際に、委員会の中の意見をまとめて事前に審議の前にご送付というふうなお約束をさせていただきまして、ぎりぎりとなってしまいまして、まずおわび申し上げますが、お手元の方に次第とともに今回のA3判の横長の表の形で資料が行っておるかと思えます。お手元よろしいでしょうか。予備もございますが、よろしいですね。

それでは、その表につきましてまとめたものでございますが、ご説明をさせていただきます。

まず、前回のご議論でございますが、2月17日、それが真ん中の第3回小委員会の意見(要約)という形になってございます。これは、その前に行いました第2回小委員会のまとめということで、1月29日に行いましたまとめについて幾つかのカテゴリーに分けて皆様にお示しし、それに沿ってご議論いただいたものと認識しております。そういう意味で1月29日の議論の内容について、審議の内容でございますが、この中身について整理をかけるということで整理をかけさせていただきました。

そして、項目別でございますが、まず1番目として議論の内容についてでございますが、一番左側の欄、左側の列になりますが、その順番で申し上げたいと思えますが、まず1丸、市名について、意見交換を行い、委員会としての共通認識を見出すための議論。変えない場合、変える場合を含めての共通認識や相違点を整理するというので、市名について幅広く論議を行うということで、内容をご意見いただいた部分でございますが、真ん中の欄、第3回小委員会の意見(要約)ということでございますが、まず変えない場合についてのご意見。それぞれ発言は、全体の委員会が2時間を超えると

いう非常に活発なたくさんのご意見いただいたわけですが、中身につきましてはすべての発言を網羅することはできませんので、その中でポイントとなる幾つかのご発言、重なっている部分については当然整理させていただいて、言葉も少し割愛させていただいて、ニュアンスを損なわないような形で要約してございます。お含みおきいただきたいと思えます。

まず、変えない場合についてでございますが、上越市という名前がついて既に 35 年ということでございまして、その重みというご発言で、それを皆さんと一緒に考えるべきだというご発言。さらに、これは議論の順番からいくと後の方になるんですが、上越線と間違えないために名前を変えるという考え方はいかがと。3 番目に、上越市のままでよいが、上越市民の皆さんからも声が出て、新しい市の名称に変えるということになれば、それに異存はないというご発言。それから、次のぼつですが、変える前提ではなく、上越市という考えのもと、話し合いをした方がよいという意見。さらに、次のぼつですが、編入合併なので上越市でよいという部分です。

それに対しまして、変える場合ということで幾つかのご意見いただいた中では、上越新幹線というこの名前と紛らわしいと。それから、合併で新しくスタートすることから、市名も変更すべきではないか。次のぼつですが、上越市ではネームバリューがないというふうなご発言。それから、合併する今しか市の名称を変更する機会がないのだからというご発言。それから、編入であっても気持ちは対等という観点から変更すべきというご発言などがあったかと思えます。

さらに、その他として、どちらともという部分でございますが、変える、変えないではないんでございますが、上越市民の意見を尊重すべきという趣旨の部分。それから、次のぼつで、上越市そのもの名前も尊重した上で審議をというふうなご発言だったかと思えます。

それをもとに、一番右側の列になりますが、論点のまとめということで整理をさせていただいた部分でございます。議論の内容、方向性というのは、こうした議論を通じての共通認識は一体どこからスタートできるのか、そして相違点はどういうふうにあるのかということかと思えますので、どう議論したかということを中心にきちんとまとめていくことと承知しております。そういう意味で、まず論点のまとめ。上越市の名称についてと。共通認識として、まず出発点となった部分でございますが、上越市の名称が上越後という歴史的由来からきていること、これは 1 回目で用意させていただいた資料からの部分かと思えますが、上越という名前がそういう歴史的由来からきているというふうなことはご理解いただいた上でいろんなご発言いただいたのではないかと。さらに、上越市となってからの 35 年間の重みと、35 年とは約 35 年という意味なんでございますが、時間的に 35 年間その中で暮らしてきた 35 年という重みをまず前提にというお話がありまして、その前提も幾つかの発言の中で確認されておるかと思えます。

その中で相違点として、まず変えない場合、そういう認識に立った上でであっても、まずでありまして、その上で歴史的な由来を尊重し変えるべきでないというご発言。それから、名前の由来が違う、意味が、起源が違うという意味でございますが、上越新幹線、上州、越後と一緒に議論するのはおかしいので、変えるべきではない。それから、編入合併では市名変更の事例がほとんどないことと、上越市となってからの 35 年の重みを尊重し、変えるべきでないということ。

それから、変える場合につきましては、上の意見と反対の形になる部分ありますが、上越新幹線との歴史的由来は違うが、響きやネームバリューといった点から混同を避ける意味で変えるべきである。それから、次のぼつですが、合併するのであるから、新しくスタートするという観点と編入であっても気持ちは対等（新設）と、新設合併と同じだという意味だと思えますが、との観点から変えるべきであるというふうなお考えをそれぞれ意見として、おおむねこういう形で出されたのではないかとこのように考えております。

続きまして、大きな 2 くり目の欄になりますが、市の名称を考え、判断するための手法、手続きがいかにあるべきかの議論を行うという部分の整理の中身でございますが、これに関するご発言は全員参加で新市の名称について考えるべきというご発言があったかと思えます。具体的にはどういう会とか、そういうふうなご発言ではございませんでしたが、そうした集まる機会をというふうな意味だと

とらえました。それから、アンケートに関してもたくさんご発言いただいたところでございますが、アンケートを行うことが一つのよい方法であるというふうなお話、ご意見があったかと思えます。それから、アンケートの結果について学問的な、そういう見識をお持ちの方の意見を聞くということが必要ではないかという、具体的にアンケートやる際の方法論についてのお話をされた方もあったかと思えます。

それで、まとめの方でございますけれども、これにつきましてはいろいろな諸論議をいただきましたが、具体的な手続として一番上の方、まず全員参加で新市の名称に考えるべきという部分につきましては、具体的に事務局の方でこれに当たる部分はということかというふうに考えますと、そうした名称について参加型で話し合う機会というふうに考えるのであれば、例えばシンポジウム、あるいはフォーラムというふうなことが考えられるのではないかということで、手法としてシンポジウムを挙げさせていただきました。また、アンケートにつきましても当然ご議論されている部分でございますので、そういう一つの方法論としてアンケートがいいのではないかというお話がありましたので、アンケートと。さらに、学識者の意見聴取、どういった形で取り組むかは別でございますが、以上そのような手法が手続論の中で手法として考えられるということでのまとめをさせていただいた次第であります。

最後の欄でございますが、その他の議論と、その他という言い方をさせていただきましたが、ここについては活発な意見をかなりいただいたと思っております。市の名称についての議論を通じて、この市町村合併についての認識を深め、新しいまちの一体感が生み出されるような取り組みが求められていることも考慮する必要があるということを受けまして、前回も今まで余りご発言いただけなかったということで、女性の委員さんを含めましてたくさんご意見が前回出されたかと思えます。これにつきましては、ちょっと言葉で短くまとめるのが非常に難しいもので、かなりご発言を切らせていただいた形が多々ございますが、これは今読まさせていただきます。また1番目でございますが、1ぼつ目、新しいまちの一体感が生み出されるような取り組みをしてほしい。2ぼつ目、どの市町村もそれぞれ地域性を生かしたまちづくりを進めてきた。14市町村による合併は、数が多く、面積も広いことから、急に一緒になると言っても、なかなか理解し得ない。新市名を考えながらお互いの理解を深めていけないか。それから、3ぼつ目、市名をみんなで考えていくことで、将来この広い地域がお互いに理解し合いながら発展が遂げられる。それが今目標に上がった協働のまちづくりであり、海に、山に、大地に、なりわいと文化あふれる20万都市、上越に近づけるのではないか。4ぼつ目、市の名称の話し合いを通じ、14市町村がみんなで手をつなぎ合って新しい市をつくるという夢を語り合いながら、力を出し合うことで、すてきな市になるのではないか。5ぼつ目、一番住民が関心を持っているのがこの新市の名称ではないか。6ぼつ目、新市の名称の議論は、極めて格調の高い、文化的な要素を多分に占めている。合併するとき、新市の名称というのは大変意義深いことから、結論を急ぐのではなく、この大同団結した21万の新生市に、その名称はどうあるべきか、皆さんの心情を披露し合うべきである。最後のぼつでございますが、新市の名称を議論するに当たって、町村それぞれの代表であることの立場を超えて、新市の住民になるという、今、市町村の枠を超えた議論をする必要があるのではないかというふうなご発言をいただいたかと思えます。

論点のまとめということでございますが、ここは論点のまとめという整理とはちょっと違うかもしれませんが、状況をやはりまとめてみますと、この市名の議論を通じ、市町村合併についての認識を深められてきており、一体感を生み出すということについても議論がまさに今行われているということだと思います。それから、相互の理解、尊重し合うことの重要性について、それが重要だということで認識を深めている、そういう話し合いをしているということでございます。それから、名称の議論を通じてよりよい合併を目指すことが話し合われているというふうなことで状況を書かさせていただいたということでございます。

以上、前回の第3回の意見をそれぞれポイントをすべて挙げる中で、今まとめとして事務局がさせていただいたのは以上三つでございます。

以上、報告終わらせていただきます。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

それでは、今の事務局の説明について、皆さん、何かご質問おありでしたらお願いしたいと思いません。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○笹川一成委員長 なければ、次へ進んでいきたいと思えます。

今回の審議の進め方についてですが、3月に入ったということですから、協議会の報告を視野に入れた論議を行いたいと考えております。そこで、今ほど事務局から説明がありましたが、前回の小委員会での資料を踏まえ、論点のまとめとして整理した内容が資料の右側に記載されております。協議会報告に向けて整理を行いたいと考えています。なお、前回、第3回の小委員会の話し合いをもとに、さらに発展的な方向となるようお互いに意見を持ち寄るといようなことになっている点を田中副委員長から報告をいただいております。本日は、その方針も踏まえてご意見をいただければありがたいなというふうに思えます。

進め方は、こんな形でよろしゅうございますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○笹川一成委員長 じゃ、そのようにさせていただきます。

それじゃ、まずこの資料の一番上の段、市名について意見交換を行い、委員会として共通認識を生み出すための議論、これを変えない場合、変える場合を含めて共通認識や相違点を整理するとなっておりますことの論点のまとめについて審議したいと思えます。皆さん、いかがでしょうか。

その前に、先ほどあれしました皆さんの意見まとめてこられた方おありでしたら、まずお聞かせいただきたいと思います。

○新澤明一委員 柿崎の新澤でございますが、先般の田中副委員長さんの最後のお話の中で、次の会にはある程度個人的な意見じゃなくて、団体、もしくは議会、まちの意見をということでお話がありました。私らも特別委員会がありますので、その中で一応私の方からお願いをして、特別委員会の中でお話をさせていただきます、そのまとめたのが変更をしていただきたいと思います。変更していただきたいが、この会には具体的な市名はまだ持っていかんでおいてくれという話もありましたし、具体的な名前も挙がってきましたが、私は今回はその提案はいたしません。それと、もう一つは変えるなら合併と同時に変えていただきたいたい。それと、もう一つはアンケートとしては廃置分合が終わってからアンケート調査をやっていただきたいたい。この三つが柿崎の特別委員会でまとめたものでございます。

以上でございます。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。

どうぞ、清里の。

○保坂隆男委員 清里の保坂ですが、上越という名称は三十有余年を経過しておりますし、またその名称もある程度定着しつつあるというふうに認識しております。さらに、この名称の由来もこの前ご説明いただき、歴史的、地理的に、あるいは民俗学的にいわれを理解しているところであります。しかし、このたびこの14市町村という非常に大きな市が誕生しようとしております。しかも、人口が21万規模という市になるわけでございます。そういう観点に立ちまして、このような合併というのはもう二度とないのではないかと、こう思われるわけであります。こういう機会に、やはり新しい名称にするというのが清里での特別委員会の意見でございました。したがって、名称を変えるということでございます。

以上でございます。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。

じゃ、名立の塚田さん。

○塚田正委員 名立町でございます。私当初から皆さん方に申し上げておりますとおり、上越市ということのでうちの町の議会の特別委員会並びに住民代表の合併審議会等で賛同いただいております。

以上です。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。

大島村の丸田委員さん、どうぞ。

○丸田伸一委員 大島村の丸田でありますけれども、前回にもお話を申し上げたように大島村には議会特別委員会と、それから市町村合併推進委員会、この二つがございます。先般これの新市の名称について多面的にわたりまして協議いたしました。その結果、新市の名称を変えようというのが多くの意見でありました。新市の名称については編入合併であります。編入合併であります、気持ちは対等であるというような観点から、新しい名前幾つか挙がったわけでございますけれども、これは柿崎町さんが言われたように、私もこれまで新市の名前幾つか挙がりましたが、決めてはございません。変えようという意見は一致しているところであります。

以上です。

○笹川一成委員長 どうもありがとうございます。

ほかにございませんか。

どうぞ。

○内山米六委員 大湫の内山です。私も特別委員会でも協議をさせていただきました。この合併については編入合併であるけれども、気持ちは平等、対等ということで、そういう精神で向かうんだということが言われていますから、この件が問題になりまして、これを形にあらわすのは新市の名称を変えていただくのが一番いいんじゃないかと。そして、その中で新しいまちの一体感をみんなで共通認識をした方がいいんじゃないかということに意見が一致しております。そして、名称についてはアンケートをとった後に考えるべきであって、そのアンケートは柿崎さんがおっしゃった、私も前回話しさせていただきましたが、廃置分合後、議決が決まった段階で、14市町村一斉でアンケートを実施していただきたいということでもあります。

以上です。

○笹川一成委員長 どうもありがとうございます。

ほかにございませんか。

どうぞ。

○吉村一博委員 吉川町の吉村です。基本的には前回ここで話したのと変わっておりませんが、要するに上越市という名前も含めてみんなで協議したいと。どうしたら一体感を持てるようなことができるかという手法についてやはり議論すべきだろうと。希望だけ言っても、その手法がなければ何もできませんので、それをきょう皆さんで議論していきたいと。基本的には、アンケートがいいのかなという感じがいたします。

それから、もう一つ、お願いしていたこの資料について早く出していただきましたので、非常にありがたいと思っております。

少し気になったのは、私も少し柔軟な姿勢といいますか、確かにそれぞれ議会、団体の代表と来ていますけれども、この小委員会は何のためにやるかというところをもう少し考えないといけないのかなと。確かに自分たちの背中にあるものの代表ですけども、ここを引いたり、押したり、意見を調整していかないと、言いつ放して終わっちゃう可能性がありますので、その辺はもう少し柔軟な姿勢が必要なのかなという感じはいたします。

終わります。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんか。

どうぞ。

○布施兵衛委員 頸城村の布施です。基本的には、先回申し上げたことと変わらないわけでありませう。つまり住民の意向を確認する意味で変える、変えないについてはアンケートを行うと。そして、同時にその際に名称についても聞くということだと思ひます。

それから、先回も学問的識見を持った人の意見を聞くということを申し上げたわけですが、名称を考へ、判断するための具体的な手法としては、きょう挙げられておりますが、パネルディスカッションもありますが、むしろシンポジウムの方がいいのかなというふうに思っております。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

今ご意見ありましたこの手法については、この後またちょっと皆さんからお考へお聞きしたいと思います。

ほかにございませうか。町村へ持って帰られて、町村の考へ方まとまっておられるところありましたらお聞かせいただければと思ひます。

○豊岡眞一委員 中郷村でございませうが、先般特別委員会を開催いたしまして再度お諮りをいたしました。最初に申し上げましたとおり、やはり上越市民の皆様方の意見を尊重するのが一番ではないのかという点と、それから新しい上越市の皆さんがもし市名を変えるということであれば、それについて特別異存はありませんと。そして、できればこのアンケート調査、14市町村がそろってやはりアンケート調査を行っていただきたいという意見がまとまりました。

以上です。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ほかに。

どうぞ。

○島田武委員 板倉の島田です。実は、先日の推進委員会でもアンケートをひとつ第一に考へるということで、アンケートの調査ということでお願いしたいふうに決まったわけでございます。それも時期的には、なるだけ早い方がいいんじゃないかというようなお話も出ました。

以上です。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ほかございませうか。

どうぞ。

○松縄教一委員 三和の松縄です。前回も申し上げましたけれども、面積の面でも、数の面でもずっと話がありますけれども、全国最多の市町村合併であるというふうなことから考へまして、もちろん14市町村、上越市も含めてアンケート、これぜひひとつとして、住民の意向を確かめてほしいというのが三和村特別委員会の意見でございます。

以上です。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ほか。

○宮本富男委員 牧村の宮本です。私は、前々から言っているように変更すべきであるということです。なぜかという、これだけの14市町村の合併というものは全国にも例の見ることはない状態ですから、改めて新しい名前にした方がいいということでありませう。それから、と言ったとしても市民がどういうふうに対応するかわかりませうから、やはりアンケートということは、私最初から言っているようにアンケートをとって、その意向に従うということです。実施時期においては、この小委員会の結論を法定協議会に上げて、その結果どうなるかわかりませうから、その後いろいろとまた討議すればいいんじゃないかというふうに思っております。

以上です。

○笹川一成委員長 どうもありがとうございます。

もう一町村ですか。

○石田敏一委員 浦川原の石田でございませうが、浦川原でも検討委員会を設けまして審議させていただ

いたわけでございますけども、合併の時点では上越市なんだというような事務局のそういう説明もございまして、それならば上越市もやむを得ないんじゃないかというような方向でまとまったといいましても、大変私の説明が悪かったのか、余り審議未了感というものもございましたんですけども、一応そういう方向性というものがなりました。しかし、合併協議会委員の皆さんの意見のすり合わせもさせていただいたわけでございますけども、そこらあたりとまた変更していただきたいとか、今後並行して協議をさせていただきたいと、そのような意見でございまして、そこらあたりまでのご判断にさせていただきたいと思っております。

以上です。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

もう一方、出口の方が、どうぞ。

○松野恵委員 安塚の松野ですが、私は第1回目から安塚は上越市でいいということで、ただし上越市民の皆さんが新しい新市に変えてほしいということになりや、それで異存ないということで、最初から安塚町は上越市でよろしいというご意見でまとまっておるところでございます。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

今お聞きしますと、各町村でご意見をお持ち寄りいただいたわけですが、あえて上越市の意見は今聞く必要ないと思っておりますので、聞きません。そういうことでご理解いただきたいと思っておりますが、今皆さんからお聞きしました件につきましても、名前を変えるべきではない、変えるべきであるという、いろいろの意見がございまして、これらも第1番目の論点のまとめとして事務局の方からまとめさせていただきまして、協議会の方へ報告するという形をとらせていただきます。それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

それでは、今皆さんから各町村の意見を持ち寄っていただいたということで、いろいろご報告いただいたわけですが、冒頭申し上げましたように資料一番上の市名についての意見交換を行い、委員会としての共通認識を見出すための議論、これは今のお話である程度この論点のまとめもできそうに思いますので、次にいきたいと思っておりますが、特にまたこのところでご意見ございましたら、ほかにはございませんか。

どうぞ。

○内山米六委員 あまり簡単過ぎていいですか、皆さんの意見交換された方がいいと思うんです。私は、変えないでいいとおっしゃる皆さんの中で、上越市の市民の皆さんの意向を尊重したいというようなお話がございましたけども、私ら合併すれば市民なんです。21万という、その人口の中の一町民になるんです。そのときに、どう判断されるんですか。今お聞きすると、大方の方が変えた方がいいんじゃないかというふうにおっしゃっているわけですけど、上越市の現在の市民の皆さんの意向、これは大事なことですけども、でも協議会の中では少なくとも、先ほど触れましたけども、編入合併であっても精神は対等、平等なんだということが確認できているわけです。それを形にあらわせる唯一のものというのはこの市名だと思うんです。新しい市になるわけですから、21万という大きな都市、そして面積も中頸城から東頸城、西頸城の一部もこう大きなのになって、やっぱり名前と、名称というのは変えるべきだというふうに私は思います。私らは、何度も言いますが、市民になるんです。これだけ変えてほしいという声大きいということは、変えないでそのまま突っ走っていくと、何らかの形の運動が起きてくる可能性もありません。そこら辺も十分考慮していただいて、上越の皆さんもそういう懐の深い判断を私はいただきたいと、そんなふうに思っています。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ちょっと急ぎ過ぎた感じもございまして、別に急ぐというつもりもなかったんですけど、今ここで問題になっているのは変えるということと、変えないという問題の二つだと思うんですが、それを、じゃこの委員会としてどちらにするのかという結論は出せる委員会ではありませんので、そういう話をし



たわけでございます。この議論の過程というのはやはり一番大事だろうと思うんで、それもまた協議会の方への報告の中にも十分入れていきたいと思えます。確かに今内山委員のおっしゃったように、まだ議論の余地もあるわけですけれども、もう少し今の内山さんの意見もそうでございますが、ほかにご意見ございますか。

どうぞ。

○塚田正委員 名立町でございます。先ほどのご意見に反論するわけではございませんが、今皆さん方の、市は別にしまして、町村のご意見を伺いました。その中で上越市でいいと端的に私と安塚さんですか、言ったわけでございますが、あと皆さん方がすべて変えると言ったわけではなくて、中には変えることも視野に含めてアンケート調査はいかがかということで、はっきりと変えていただきたい方と、もちろん当然でしょうけれども、アンケートの意見に従うということもございましょう。その中で当然現状でいいという方がおられるわけですから、アンケート調査もいいと、やってくださいという方には、すべて変えた方がいいという思いを込めて言っておられる方もすべてでは私はないということを確認をしていただきたいと思います。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

今私申し上げた、この後またこれからはもし変えるとしたら考えられる手法としていろいろその次に挙がっているんですが、その辺へ入っていきこうかなと思ってたんで、そこでまた皆さんからご議論いただければと思っております。今名立の委員の方からそういう話も出ましたし、先ほども途中で頸城の方ですか、シンポジウムという話も出ております。そんなことで、そちらの方へ移らせていただいでご議論いただいてもよろしゅうございますか。

どうぞ。

○新澤明一委員 柿崎の新澤ですが、先ほど委員長さんの方から今このお話を皆さんから聞いたので、これを事務局の方でまとめて協議会の方へ上げるというようなお話がありました。だけど、これをそのまま事務局……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○新澤明一委員 ちょっと待って。しゃべらせてください。これを事務局でまとめて、どうやって協議会に上げるのか、私それをちょっと聞きたいと思ひまして。

○笹川一成委員長 済みません。ちょっと舌足らずで申しわけありません。

事務局でまたこれを、きょうの論点をまとめていただきまして、それを協議会の場所で委員会報告ということで当然報告といひますか、発表というか、それをやらなくちゃいけないんで、そういう意味で言ったわけございまして、事務局から直接上げるということではございせんので、ご了解いただきたいと思ひます。

○近藤一郎委員 三和村の近藤でございます。論点のまとめのところ、今 13 町村の皆さんから聞いたものを論点のまとめとしようとしたときに、私は変更すべきだということと上越市でいくべきだというか、上越市がいいという二つの論点ではないと思ひんです。そのほかに変更すべきか、それから上越市のままでいこうかは、これはとりあえず別としてアンケート類、意向調査というようなものも含むんだらうと思ひんですが、アンケートをより一体感を増すためにやるべきだということだと思ひんです。ですから、私はここの論点のまとめは、大きく分けると二つではなくて三つにまとまるもんじゃないかというふうに思ひんです。だから、同時に委員長が盛んに次、手法の話に持っていきこうとされているんですが、そうではなくて各町村の考え方が最終、変更するのか、しないのかということよりも、経過なりをウエートを置きたい、重点を置きたいという部分もあるんだと思ひんです。そういった意味で私は論点のまとめのところは、大きくまとめると三つというふうにまとめるべきではないかと、こう思ひんですけど。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。貴重なご意見だと思ひます。変えるか、変えないかじゃなくて、そののいわゆるそこへ持っていくためのプロセス、いわゆるアンケート調査であるとか、そのほかの考えられる手法もあるわけですけれども、確かにそのとおりだと思ひます。済みません、あ

りがとうございました。

ほかにございますか。

どうぞ。

○吉村一博委員 吉川町の吉村ですが、先ほど発言した中に吉川町としては上越市という名前を含めてみんなで考えようということでありまして、それはどういうことかといいますと、最終的な判断は上越市がやるわけですから、決めてこれでやるんだというようなことを言っても、それは参考にしかないという観点から、そういう判断です。新市の名称の協議事項の中に、これらを踏まえて合併協議会においては上越市の名称を変更するかどうかを含め、議論をするというふうになっているわけです。ですから、さっきも何度も言いますように話を聞いていますと、確かに変えた方がいいという人が多いわけですが、そのこれから手法に入りますが、手法の中でそれを上越市にどういうふう意見として上げていくかというのは私は重要な部分かなというふうに思っていますので。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

どうぞ。

○内山米六委員 吉川さんのおっしゃるのは当然のことだと。私は、そういうのは前提に置いて話をしているつもりです。上越市議会が最終的なご判断をされるわけですから、ここで決まったことが即変えとか、変えないとかという話にはならないわけですから、そこを念を押されなくても十分皆さんは承知しているというふうに私は理解していますが。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

よろしゅうございますか。

○小菅宏造事務局総括 じゃ、事務局から。

○笹川一成委員長 済みません、じゃ事務局の方からちょっと。

○小菅宏造事務局総括 申しわけございません。確認をさせていただきたいと思うんですけれども、今ほどのご議論、私ども進め方として、それぞれ近藤委員からのご発言もございましたが、論点のまとめということで三つに分けさせていただいて、まずこの委員会というものが名称についての議論をする場所であるということの認識から、共通認識、あるいは相違点についてまとめといいますか、整理させていただいたわけでございます。この点についてのご議論をいただきたいという部分がありまして整理もしたいわけでございますけれども、その中でここに修正するような、あるいは付加するようなご発言というのがボリュームとしてはほとんど今なかったかのように私どもちょっと受けとめておりまして、ここを整理するという発想で上越市の名称いかにあるべきかということの、そうした名称に関する議論、ここの中についてのご意見というのはどう整理したらいいのか、事務局としてはまだお答えいただいているように感じております。ですから、これで終結するかどうかは別といたしまして、そこら辺のところをご確認いただきたいと思うんでございますが。

それから、もう一点でございますが、今それでは吉村委員、あるいは内山委員とお話、ご確認の中であった部分でございますが、アンケートをすとか、あるいは変えるとか、そういうふうなことにつきましてご議論、ご意見というのはもちろんする場所でありまして、当然のことでございますが、あるいはそうした議論があったことを含めて協議会に報告するということはお話し申し上げて、それはできることと考えておりますけれども、当然のことながらそれができる、できないということを決める会ではないということはいま一度ご確認をいただきたいと思っておりますし、よろしくお願ひしたいと思います。

○笹川一成委員長 皆さん、今事務局から説明あったとおりでございますが、今の事務局の説明でご理解いただけますでしょうか。

○早津輝雄委員 私は当事者の上越市の議会、早津でございます。先ほど来いろんな意見拝聴させていただきましたし、おおむね記録もさせていただきました。それはそれで十分頭に入りましたが、きょうの会議資料の論点のまとめとしてはこれでしかるべきだと思いますが、委員長のリードのもとにいいよまとめの方向にいかうと。その中で今いろんな意見を交わそうと、そういう段階に入ってきて

いるのかなと思いますが、これは私の認識といたしますが、考え方ですが、今度は共通認識とか、相違点とかというようなまとめ方ではなくて、三和村の近藤さんがおっしゃったような、きょうはこの二つでいいんだけど、この後は三つを軸にした論点の整理でいった方がわかりやすいのではないかと、こんな感じを持っております。そして、委員長のお話の中で、上越市は特に今考え方の発言を求めないということで、それはそれで正しいわけですが、基本的には協議会からこの小委員会に委託をされた委託事項といたしますが、ここを大事にしつつ、最終的に論点のまとめとして名目どうなるか私も知りませんが、委員長報告というようなたぐいの形で協議会に持ち出されるものと、提示されると、こういうふうを受けとめていますが、それらを受けて上越市議会が、当然だと思うのですが、意見を尊重しながら判断をくだすと、こうなるのかなと、こう思っております。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

今早津委員の話にもありますが、先ほどの話のように論点を三つに整理するというこのようでございます。変える場合、変えない場合、それからそれらを考える、いわゆる手法の問題、そういったところにまとまるんじゃないかというふうに思っております。ちょっと司会の方がふなれで申しわけございません。

事務局の方からもう少しあるそうでございます。

○大山仁事務局総務チームリーダー 済みません、確認といたしますが、論点のまとめの中で、今ほど3点というお話もありましたけれども、一応こちらの方で報告を踏まえたものが右側きょうの論点のまとめということで記載させていただいているところでございまして、今それぞれの自治体の方で意見をいただいた、これは議論の過程の中で変えたいだとか、あとこの上越市のままでいいという、これについてはこの会の中でいろんな発言いただくことは構わない、議論していただくというのは当たり前のことなんですけれども、あくまでこの委員会につきましては名称を変更するかどうか議論するという、そういった見地に立ちまして、今出た変えない場合、変える場合についての相違点といたしますが、意見をまとめたものがこちらでありまして、まずこちらについてのご意見をいただいて、ただ変えたい、変えたくない、そういう報告もちょっとしづらいという状況もありますので、なぜ変えないのか、なぜ変えた方がいいのかというものをまとめたのが一番上にございます。こちらについて前回は踏まえてこういう形になっておりますので、あくまで決める会ではないということ、協議会から付託を受けた中、再度繰り返してしつこいとしかれるかもしれないと思いますが、上越市が最終的な判断をすることとなり、その上でそのことを踏まえて名称を変更するかどうかを議論するという小委員会のこととございますので、ここで決めたというわけにはなりません。すなわち、じゃ何ができるかと言えば、じゃ変えない場合はこれこれ、こういう理由なんだ、変える場合はこういう理由で変えた方がいいんだということを深めていただければと思ひまして、右側に論点をまとめたものでございます。

それと、その中段、最初に今上段の方をご議論いただいているわけですが、先ほど3点という話につながるのかどうか。手法的なものということで、そういうことについてもこの後ご議論いただければと思ひますけれども、そういったことでちょっと事務局資料作成をいたしましたので、上段のこのことについてまずご意見をいただいて、その上で順次本日の議論を深めていただければと思ひます。考え方は一応整理させていただいたんですけれども、そういう形をお願いできますでしょうか。

○笹川一成委員長 事務局から一応この委員会の考え方のようなものが今ご説明あったわけですが、とりあえず上段の件につきましてはそのくらいにさせていただきます、その次の考え、判断するための手法、手続がいかにあるべきかの議論に入っていきたいと思ひますが、いかがですか。どうぞ。

○近藤一郎委員 三和村の近藤でございます。事務局は、一生懸命協議会報告する報告書をどうやって書こうか、どうやって書こうかと必死になっているわけです。それに対して、皆さん、これでいいでしょうか、これでいいでしょうかと、こう言っているわけだと思ひます、事務局。それで、その点で私言わせてもらうんだとすれば、論点のまとめのところ、これきょうは数行になっています。これ過去の3回の委員会の議事録で皆さんいろんな意見、特に前回は何時間も議論したわけでしょう。こ

れ議事録でも、テープでも、事務局、もっと慎重によく拾ってみて。ということは、議事録はあんにきょう相違点これ出しましたけれども、これで皆さんからよく意見交換をしていただいて、この文言でよろしいでしょうか、その返事くださいというのは、端的に言えばそういうことなんでないかと思って私とっているんだけど、もっと言い方かえると前回デュオ・セレッソか何かで2時間が3時間やったわけでしょう。あれもう一回やれというの。そういう意味じゃないよね。だから、そういうんであれば、私は報告書の論点の大きな柱が3本どうもできそうだと。じゃ、変更すべきだということについては過去4回なり、5回の小委員会の中でこういった意見がこうあって、これをさらにまとめると、こうなるとかというのがデータ資料あります、事務局。私そう思うんです。それから、それは変えないで上越市でいこうというものについても相当なものが議論していますから、あると思うんです。ないのは、この手法のところだと思うんです。その辺だけをきょうちょっと詰めるというか、議論するということじゃない、進め方として。そういうふう思うんですけども、私事務局に話しかけちゃいけないのかな。というふう思うんですけど、どうなんでしょうか、委員長。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

内山さん、何か意見ございましたら、いいですか。

○内山米六委員 はい。

○大山仁事務局総務チームリーダー 資料に基づいて説明させていただいたところなんですけど、まず第2回のところで資料、会の進め方というものを整理させていただきました。この資料ですと、一番左側にございます。これを踏まえた議論で、一応最終的な報告というものをイメージをした中で我々も本日の資料を用意させていただきました。いろんな意見が出て、変える場合、変えない場合といった、いろんな意見がありました。それを集約したのがこちらで考えられる今まで皆さんの意見、こちらの都合で整理したものは一切ございません。ただ、論点について共通認識を見出すための議論、変えない場合、変える場合を含めてという、こういった中で当然同じ、類似の意見もいただいております。そういったものは整理をさせていただいた上で本日の共通認識、相違点というものをこちらでは書いたつもりでございます。それで、もしそういったつもりで言ったわけじゃないのに同じようにまとめられているというのがあればこの場で報告なり、意見をいただきまして、またそれについて議論いただいた上でこちらの方も資料づくりの方をしたいと思っておりますので、こちらの方も一応議事録は何回も、それが仕事ですので、それを読んで作成しているつもりですので、漏れとかがあるようであればお願いをしたいと思います。

以上です。

○田中昭平副委員長 上越市の市民の立場なんですけど、アンケートという話は資料の中にあります。ただし、新市の名称に関するアンケートについては事務当局といろいろ事務的な連絡として、これからやるということについては作業日程上難しいであろうということになっているわけでありませう。それから、今変えた方が、変えないほうがという、この手法の発展性をこの辺で持っていかなきゃならんと思うんですけど、一つは昭和45年の12月15日に高田と直江津を合併して、そして上越市になった。今度は編入合併ということで21万都市になるわけです。ですから、上越市が合併するから、名前を変えていくという、その理由、根拠がはっきりまだ具体化していない。私は、上越市という名前に考えた場合には、今度は21万都市の上越市になるわけでありませう。そうした夢と希望を持てる、格調の高い、精神文化的なものをよくとらえている名前をほかに変えなければならないという、その理由です。上越市といっても、編入合併したときには21万都市の上越市になるわけです。ですから、そういう形において夢を託して21万の市民が団結して、その醸成に向かって推進していくと、まちづくりしていこうという考えもあるわけです。それから、今町村の段階でせつかく14一緒になるんだから、この機会に上越市の名前なんて古臭いから、新しい名前にした方がいいんでないかと、こういうようなことの見解と、上越市の民衆の気持ちがどの辺にあるのか、そういったようなことの動向とか、考えとか、方向性を見た上で、また変える、変えないを考えたいと。それは、第3次元の次元の低い考え方です。そこで、変えるということならば、今それぞれの町村の段階で会合して決めてき

たわけですから、皆さんその代表で出て、今委員会としての委員の代表として、変えるならば 21 万都市として、その変える根拠とか、理論性とか、その背景になるもの、具体的なものをさらに論議をそれを少し上限に出していただけると、また今の上越市としての編入合併の名称の一つの論と、変えた方がいいと、これを今度皆さん、14 市町村の中の委員の一員として、その回答がいいという格調の高い論理構造というものをさらにそこで話してきて、この名前に変えると 21 万都市の市民に全く浸透して、新しい新風を招くまちの名前だと、そんなようなことも付随してやっぱり意見を出さないと、変えた方がいい、変えたいなんていったって、どんぶり勘定の話し合いになっちゃって、そして変えた方がいいという町村の数は多いから、それは変えるべきだなんていうようなことで、最後は名前の根拠規定というようなことが皆さんもあつたら、そんな話を出していただければいいかと、こんなふうに思います。

○笹川一成委員長 今私も田中委員の発言についてはちょっと首かしげるところもあつたんですが、どうぞ。

○内山米六委員 田中さん前回副委員長の立場でいらっしゃいましたが、委員長代理を務めていただいて、まとめていただいたわけです。そのとき三和さんがおっしゃったように全部意見が尽きるほど意見は出ています。そして、その内容をテープとっているわけです。それを掘り起こしてもらえばこんなまとめにはなりません、正直言って。少なくとも、私の言っている限りではこんな内容ではないです、変えてもらいたいという内容。ちゃんと理由をつけて言っています。田中さんがそこをご存じで頭から抜けていらっしゃるとすれば非常に問題です。いいですか、もう一回言います。これから地方分権、自主自立のまちづくりというのが求められているんです。これはどういうことかということ、それぞれの自治体で競争が起きるんです。そのときに今の上越市の名前でいいのかどうかというときに考えたときに、ここにいう変える場合の響きとか、ネームバリューというようなことは、一つとして言えるかもわかりませんが、何よりも大事なことは 21 万都市住民が新市の一体性の中に結集できるかどうかです。そこにかかっていると思うんです。私は、今の上越市をそういう意味で変えた方がいいと。立派な根拠だと思っています。

○早津輝雄委員 きょうのテーブルの上にある資料の論点のまとめ、内山委員のおっしゃることもそれは一つの見方だと思って今拝聴しておりましたが、私はまあまああつた議論を全ページ、全文載せれば、論点のまとめとしては非難の余地はないんですが、ある程度短い文にまとめるとすると、あの点も落ちている、おい、この点も落ちているぞと、こうなりがちだと思います。それは認めますが、よくそれでもまとめたかなと、こう見ているところです。その上で、きょうはそれぞれの皆さんからまとめの考え方をお聞かせいただきました。せんだってのものを踏まえて、一步また前へ進んでいるわけです。そこで、繰り返しますが、先ほど三和村の近藤さんおっしゃったようなことが多分どっちが多かったかという表現もあるかもしれませんが、この委員会に付託された論議をする目的にかなっているんでないかと。理想的な議論を尽くしてきたとは思いませんが、当初考えていたよりは十分議論が深まったと。これは、満点であるのかどうかというのはまた評価の分かれるところですが、延々とやればもっといいかもしれませんが、なかなか時間的な制限もある中で、それでも活発な意見が出たなというふうに思っています。したがって、きょうのそれぞれの町村の皆さんのまとめの意見を含めて三つの柱を考えると、その中に考えられる手法も総体的には入っているのではないかと。この次の手法について論議していけないと言っているんじゃないんです。ないんだけど、おおむね入っていて当委員会に付託された内容にこたえつつあるのではないかと、こう認識しております。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ちょっと司会が不手際で、話が十分変わってきたようでございますけれども、この辺でちょっと 1 時間経過しましたので、休憩をとりたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○笹川一成委員長 それじゃ、10 分休憩しまして、45 分から再開したいと思います。

午後 3 時 34 分 休憩

午後3時43分 再開

○笹川一成委員長 それでは、会議を再開いたします。

いろいろありましたけれども、上段の論点のまとめの中で、変える場合の理由としてはいろいろここに2点ほど載せてありますが、この理由もこれだけではないという意見がございました。これにつきましても、この後また議事録を精査させていただきまして、ここに載せてまいりたいと思っております。

それから、もう一つつけ加えておきますが、私もちょっと言葉足らずだったと思いますが、このまとめたものをさらにまた皆さんに、次回になるかでございますが、お示しして、これでよしということになって、それを協議会の全体会にご報告申し上げるという手はずになるわけでございますので、その辺もご理解いただきたいと思います。

さらに、先ほども意見もございましたが、この件については変える、変えないばかりではなくて、その考えられる手法についても当然載せていくべきだという、いわゆる三つの提案というご意見がございました。これも十分尊重していかなければならないと思いますし、皆さんのご意見でございますので、それらもまとめの中に入れていきたいというふうに思っております。

ちょっとまた急ぎ過ぎてしかられるといけません、皆さん、今までの中で何かございましたらご意見いただきたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○笹川一成委員長 なければ、その次の市の名称を考え、判断するための手法、手続がいかにあるべきかの議論を行いたいと思います。

そこで、提案でございますが、考えられる手法についてはここに論点のまとめとして載っておりますが、シンポジウム、アンケート、それから学識者の意見聴取、こんな方法が考えられるということでございます。したがって、アンケート調査をする場合にそのアンケート調査のやり方、そういったものについては、これはここで議論する性格のものではないというふうに私は思っておりますが、それらについても皆さんのご意見をお聞かせいただきたいと思いますし、それから先回の第3回の小委員会のときの議事録も見せていただいたり、また田中副委員長さんの方からもお話を聞いておりますが、女性の方の意見もこの辺でお聞きしておく必要があるんじゃないかというふうに思っております。そんなことで進めさせていただきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○笹川一成委員長 じゃ、これからこの中段の方に入ってまいります。

この考えられる手法について、皆さんの方で何かご意見おありでしたらお聞かせいただきたいと思います。

○内山米六委員 まず、アンケートを実施するとすれば、その時期の問題があると思うんですが、時期は廃置分合議決後、要するに合併を全構成する14市町村が了解をした段階、その後ですぐ14市町村一斉でやっていただくと。そのときには、先ほどからご心配いただいている吉川さんおっしゃるように、上越市という名前も含めてどうあるべきかというアンケートであるべきだというふうに私は思いますが、そのほかアンケートの内容については事務局で、事務局というよりもこれが合併が決まった後に何らかのアンケートをとる組織がつくられて、対応されているんだろうというふうに思いますんで、その中で十分協議をしていただくということをお願いをしておきたいと思っております。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

アンケートの時期ということについては今事務局で考えておられるというか、こういうことが考えられるというようなことありましたらちょっとお願いします。

○大山仁事務局総務チームリーダー アンケートなんですけども、今回の事務局的には前回もこの会の中でアンケートの要望がそれぞれおありという話は聞いているところでございますが、中には細かい点等についてはこの場でなくてもという意見もありましたし、アンケートを実施するというにつ

いては承服しかねるといった議論もなかったわけではありません。いろんなことを総合的に考えまして、あとさらに一番最初に原点に戻るわけですが、最終的な判断をする場所というものがこの協議会というわけでもございませんし、あくまで議論するという前提に立った中で、一つの手法ということでアンケートというものもあるのではないかと、きょうのところはまとめというものを作成してきた状況なんですけども、すなわち何を申したいかと申しますと、この議論についてはその次の段で何らかのことが考えられるのではないかと思います。すなわち、この小委員会ではアンケートというものも手法の一つとして要望があったことで、きょうのところはまとめてきた状況でございますので、これについてそれぞれのご意見なりをいただくという、今のところそういったことについてはこちらの方でいつ、どうのこうのということはまだ想定していないという状況でございますので。

以上です。

○笹川一成委員長 内山さん、よろしいでしょうか。

○内山米六委員 はい。

○笹川一成委員長 ほかにございませんか。

どうぞ。

○吉村一博委員 吉川の吉村です。どうも今事務局の何か話よくわからんのですけど、そんなことはだれも言っていないです。今手法として内山さんも言われた。私どもずっと言ってきた。変えたいという人が多いんだけど、アンケートについては変えるというアンケートはできないということでありませう。そんなことで、これだけ各町村からアンケートで一体性を持った、一体感が生み出されるようなことをやりたいと、これだけ意見が出ていて、その結果アンケートをやったらどうかということでありませうので、どうやったらアンケートができるかという話を事務局はしてくれるのかなと思ったら、何を言われているのかよくわからないのですけど、私どもはそういう一体感を持てるようなことでアンケートが一番いいだろうということで、こういう席で、じゃアンケートをやろうということになれば、じゃ手法的にどうなんだという段階になるかと思いますが、いかがですか。

○大山仁事務局総務チームリーダー 私どもの申し上げたかったことは、あくまで市名について議論をするという中で手法でアンケートがあるということまでしかこちらの方ではまだ考えておらないという状況の現状の説明をさせていただいたところでございまして、あくまで今回の小委員会に課せられた協議会からの指示事項、あくまでその協議会の協議文案を見るならば、そういった手法ぐらいについてはいいのかもしれないということで、一つの手法ということできょうまとめをさせていただいたところで、それ以上のものはないということでございませう。

○早津輝雄委員 事務局も精いっぱい答弁というか、お話をしていますが、委員長を中心にして事務局は裏方として限りなく正しいまとめ方をすればいい立場でありませうして、委員と事務局との議論のやりとりというのはなじまないと思ひませう。委員長の指示で、事務局、この点について答えなさいということがあればまた別です。それから、私は変えるべきだ、変えないでいいと。これはどっち多いかというものは別として、こういう議論もありませうと、これは付託事項に沿っています。それから、もう一つ繰り返しますが、住民の全国一の規模、人口は必ずしも多いとは言ひませうが、それでも 21 万何がし。そして、みんなで困難を乗り越えて、手をつないでいこうと、一体感という面から住民の意向をひとつ聞いてくれと、この声が多いことは無視できませんから、3 本柱だと、こう近藤さんの意見に私も同感したところですよ。じゃ、もうちょっと入り込んでどうかと。その中で幾つか出た、今内山さんもおっしゃいましたが、廃置分合終わったところあたりがいいのではないかと、こういう議論もありませうと、私の気持ちとしてはとめてほしいと。じゃ、具体的にああせ、こうせという手法まで入り込むのは、この議論を尽くせということからすると、ちょっと入り過ぎているのではないかと、印象を受けておひませう。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

今早津委員のお話のように、ここはそういう議論があったという報告をすればいいということで、

皆さんもそれは理解しておられると思うわけですが、そんなことでお願いしたいと思います。今中段の方に入っているわけですが、考えられる手法としては、今まで出てきたのは大体アンケートだけのようですが、先ほどどなたかシンポジウムの話もされました。その辺のご意見をもう少しお聞かせいただければと思いますが、いかがですか。

どうぞ。

- 岩井栄子委員 吉川町の岩井です。先回の協議の中で大変いっぱい意見が出たのがその他の論議ですか、なっているところの部分だったと思いますし、まとめていただいた分もやっぱり量は多いです。私たち町民が考えるとき、やっぱりこの部分がする、しないというのではなくて、私はその過程を大事にしたいということをおの間も発言させていただいたんですけども、する、しないの上に私はアンケートがまずあって、そしてシンポジウムもあって、そして大きい 21 万都市目指した、大きいみんながやっていこうという思いをこの中で確認した後に、その結果を見て、じゃ変えた方がいいのか、変えない方がいいのかというのはおのずと判断されてくるとお思いますので、まずはやっぱり私はシンポジウムも大事だし、アンケートも大事だし、みんなが一体となつてこのまちを、この市をつくり上げていくんだというものをこの新市名の中にぜひぜひ入れていただきたいというふうにお考えしています。この小委員会だけでなく、ほかに小委員会もありますけれども、私たちが見ていると本当に綱引き合戦で、何かお互いに自分のエゴばかり出ていて、最初に準備会の段階でこういうのをつくろうということで話し合っていた部分が何かどこかへ飛んじゃっているような気がするんです。それは、やっぱりあれだけ時間をかけて、こういう都市をつくろうということでみんなで話し合つて決めたことですから、まず原点に戻つて、そこを見つめた話し合いができれば、おのずといい方向に行くのではないかとお思います。ですから、シンポジウムもアンケートもやっぱりきちんとした形でやつていく、それがみんなに受け入れられていくものだとはお思っています。

以上です。

- 笹川一成委員長 大変いい意見をいただきました。確かにお互いに自分の意見もありますが、やはり 21 万の新しい市をつくっていくんだという共通の認識に立って、みんなして意見を出し合つて、よかつたというような委員会であり、協議会であると、私もそう願つております。そんなことで皆さんからまたご意見をいただきたいわけですが、ほかにご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 笹川一成委員長 じゃ、一応この中段の考え方についてはアンケートの方もかなり、先回もそうでございますが、意見も出していただきました。それから、今シンポジウムも取り入れてという考えもお聞かせいただきました。そんなことで、それらについてアンケートとシンポジウムを合わせてというような形でまとめさせていただきたいとお思います。今このシンポジウム、アンケートでございますが、ほかに考えられる手法があれば、皆さんのご意見をお聞かせいただきたいとお思います。前回の小委員会のときに学識者の意見聴取がどうだろうかというような意見もあつたということをお聞きしたんですが、この件について何かほかにご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 笹川一成委員長 これ先回あつたとしたら、やはりこれも一応まとめとしては載せておきたいというふうにお思います。よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 笹川一成委員長 じゃ、その次のその他の議論に入つてまいりたいとお思います。この件につきましては、市町村合併についての認識を深め、新しいまちの一体感が生み出せるような取り組みが求められていることも考慮する必要があります。このことについて論点のまとめについて審議したいとお思うわけですが、ここでは先回の委員会でもかなり皆さんからいろいろなご意見を出し合つていただきました。そのことについて補足といいますか、まだこういうこともどうだというようなご意見ございましたらお聞かせいただきたいとお思います。いかがですか。ご意見ございませんか。

どうぞ。



○吉村一博委員 吉川の吉村ですが、くどいようですが、この論点の第2回のまとめの中で、一体感が生み出されるような取り組みが求められていることも考慮する必要があるということはどういうことなのか。それは第3回でもいろいろ出て、こういうこと、こういうことと書いてありますけど、それも考慮したときに、もとに戻りますが、アンケートみたいなものがなければ、ただ考慮する必要があるというだけでいいのかどうか。委員会のまとめとして、3回のこういう意見も含めて取り組みが求められているという認識に立っているにもかかわらず、小委員会ではそのことについての方法等が書いていないというのは私はまずいのかなと思います。そういうところから意見をいただいて、じゃどういうことがあるのかという意見も求めてもいいのではないかと思います。いかがなものでしょうか。

○笹川一成委員長 この件については、事務局、何かございますか。

○小菅宏造事務局総括 吉村委員ご発言のとおりでございますし、一体感を生み出すためにどうした取り組みがよいのかということで、こういうことがいいんじゃないかというご意見をどんどんいただくことは議論の趣旨にかなったことと考えております。

○早津輝雄委員 上越市の早津ですが、最初黙っていた割には後段発言が多くて申しわけありません。一番論点をまとめていく上で大事にしたいというか、最終的には書面で文言をあらわすわけです。今までの議論を何百ページにわたって、どんと委員長が協議会に持っていくわけにいかんわけで、そういうことになってくると、その他の論議という、この部分が書面としては前段に出てきて、しかるに変えないでいい、変えるべきだという意見もあった。そして、いずれにしても住民の意見を聞くべきだと、こういう並べ方が正しいのではないかと思うんです。まとめ方に入ってきていますので、あえて言うんですが。

以上です。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

ほかにご意見ございませんか。女性の方、何か意見ございませんでしょうか。

どうぞ。

○内山米六委員 大潟の内山ですが、今上越の早津さんの方からお話がありましたように私も同感です。新市名を議論する上で、こういう問題点というか、背景があって、それで最終的に変える方がいいとか、変えないでそのままの方がいいとか、あるいは変える場合にはこういうアンケート、あるいは一体感を共有化するにはアンケートが必要だとか、そういうふうなことでまとめ上げていただければいいかと思いますが、つけ加えて、変更する場合、これはやっぱり書いておいていただきたいのは、合併後でなくて、合併前に変更をすべきだと。要するに変更の方向性としては、そういうふうなうたっていたらいいと思うんです。理由は前にもお話ししましたが、合併後になりますと、まず合併時で13町村の方は名前が変わる。住所が変わるわけです。合併後また新市名に変えるとすれば、そこでまた変わるわけです。大変な作業になりますし、経済的な負担というのも当然出てきますので、合併前に変えるという形になるように、ぜひその文言も入れていただきたいというふうに思います。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

確かに名称を変えるということは大変な事務量といえますが、行政的にも大変だろうとは思いますが、今の内山さんの意見も大事な意見ですので、こちらで十分まとめの方に入れさせていただきます。

ほかに、皆さん、ございませんか。

○早津輝雄委員 内山委員の前段は一致していたんですが、後段はちょっと一致しません。言っている意見は意見として、どんな意見でもいいんですが、合併前に変えるべきだというのを文言できちっと入れてほしいというご発言のように受けとめていますが、どちらが多かった、どちらが少なかったという表現になるかどうかは、これは委員長のもとですので、今から予想つきませんが、こういう議論があったというのはいいいんですが、今内山さんの後段の話については協議会を経た後、協議会はどういうふうになるかわかりませんから、それ経ていなければ何とも言うてもいいんですが、

合併前に変えるとか、変えないということは、少なくとも上越市議会がいろんなご意見を参考にしながら判断してまいりますので、そこはそうにご理解いただけないかと思えます。

○内山米六委員 大潟の内山ですが、上越市議会で最終的にご判断なさるといのは十分承知しているということは先ほど申し上げましたが、私ども変えてほしいという者にとっては当然の私は論点だというふうに思っているんです。そこはご理解いただけと思うんで、最終的にアンケートをお願いして現在の上越市の名称、それから変えてほしいという場合には新たな名称というのも当然アンケートの項目として上がってくるだろうと思うんですが、変えてほしいという、そういう方向性が出た場合は当然合併前に変えていただくような段取りにさせていただかないと非常に困るわけです。そのことは十分承知していただきたいと思えますし、そういう議論があったということだけでもやっぱり報告の中には入れていただきたいと、こう思います。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

○近藤一郎委員 三和村の近藤でございます。もっと際どいところで言いますと、今の予定からいきますと来年1月1日合併です。1月1日、例えば新しい市の名称を上越市以外にするとする場合の意見でしょう。その手続といいますか、タイミングというのは、内山さん言っておられることと同じことを違う言い方するだけだろうと思えますが、1月1日に新しい市の名前に合併と同時にする。そして、新しい名前になった市に13町村が編入される、こういう意味でしょう。そうではなくて、例えば1月1日に合併すると。じゃ、12月1日に新しい市の名前に変えて、1月1日に編入合併すると。私はそうではなくて、1月1日、合併と同時に新しい名前にして新しい市に編入すると、そういう意味でしょう。私も名前を変更する場合はそういうふうにするべきだと、こういうものです。だから、厳密に言うと前に手続なり、みんな終わらせておいて、実際やるのは合併と同時と、こういう意味でこれは私も記載はしておくべきだと。それは、名前を変更するべきだと言っていることじゃないです。名前を変更するべきだという意見の中に、具体的には今申し上げたような方法でやると経済的損失なんかも少ないから、その方がいいだろうと、こういう書き方だと思うんですけど。

○笹川一成委員長 わかりました。今近藤さんのお話は、変更するとしたらということなんですよね。内山さんも多分そうだろうと思うんですけども、それでいいですね。

○内山米六委員 はい。

○石田敏一委員 浦川原の石田でございますが、ちょっとお聞きしたいんですけども、今ほどの議論の中で皆さん方は合併の時点で新しい市にするか、上越市にするかということで議論をされているのかなと。私も実はこのように思って議論に参加していただいてきたわけでございますけども、一説というか、上越の基本姿勢というものをお聞きしたいんですけども、あくまでも合併の時点は上越市をもって着地するんだと、その辺をお聞きしたいんでございまして、そういうあれが実は出ておるもんですから、話がありますんですから、合併の議論を今深めるといことで議論をさせていただいているわけでございますので、そこらちょっとお聞きしたいと思えます。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

今ちょっとお聞きしますと、上越市はどういう考えだというようなあれですが、そこまでここで突っ込んで議論する場所でもないと思えますので、それは避けたいと思えますし、市名についての議論であればあれですが、ちょっとその辺はどういった意味もないわけですし、上越市は今それは絶対だめだということは、それは何とかしますという話には当然ならんだろうと思うんで、早津委員さん、田中委員さんおられますが、私の方からその話はここではないことにさせていただきたいというふうに思いますが、よろしゅうございますか。今の考えはお聞きしない方がいいと思えますが、皆さん、いかがですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○笹川一成委員長 じゃ、そういうことで済みません。

それじゃ、ほかにご意見なければ、きょうの審議についてはこの辺にしておきたいと思えますが、最後にもう一方でご意見おありでしたらお聞かせいただきたいと思えます。

どうぞ。

○近藤一郎委員 次回ですが、次回これだけきょう議論させてもらったんで、協議会への報告案なるものは出るというふうにとらえていいかどうか。私とすれば報告案、事務局案なり、何でもあれですが、それはぜひひとつこの小委員会に出してもらいたいと、こう思うんですけど、お願いしたいと思いますが。

○笹川一成委員長 ありがとうございます。

それでは、本日皆さんからいただいた貴重なご意見を踏まえまして、この小委員会のまとめといいますが、これから全体会に報告するものをまとめまして、それをこの次の委員会に皆様にお示しして、それをもとにまたご検討いただきたいと、こう思っております。最終的には協議会へ皆さんの審議のいわゆるご議論いただいた内容として上げていきたいと思うわけですが、そんなことで次回まとめたものを皆さんにお示しして、それをもとにこれでいいか、悪いかということでお決めいただきたいと思っております。

○

## 2 その他

○笹川一成委員長 それじゃ、最後にその他何かございましたら皆さんからもいただきたいですが、事務局からも何かその他の件でありましたらお願いしたいと思っております。

○小菅宏造事務局総括 済みません、連絡でございます。次回の開催についてでございますが、本日の議事の進行も含めまして、ほかの小委員会の議事の進行状況もでございます。ですから、同じグループで重なりとか、いろんな日程調整もございまして、正直申し上げまして、まだ次回の委員会の日程は決まっております。最終的な3月30日の協議会もございまして、できるだけその前に開催したいという努力をしたいと思います。詳細決まり次第、日程につきましては各町村を通じ、ご連絡をさせていただきますので、しばらくお待ちいただきたいと思っております。

以上でございます。

○笹川一成委員長 長時間にわたり、ありがとうございます。

以上をもちまして第4回新市の名称に関する小委員会を終了とさせていただきます。本当にふなれな司会で申しわけございませんでした。ありがとうございます。

午後4時16分 閉会

上越地域合併協議会小委員会規程第10条において準用する上越地域合併協議会の会議の運営に関する規程第3条第2項の規定により署名する。

委員長 えちご上越農業協同組合代表理事副組合長

大潟町議会合併問題特別委員会委員長

頸 城 村 議 会 議 員